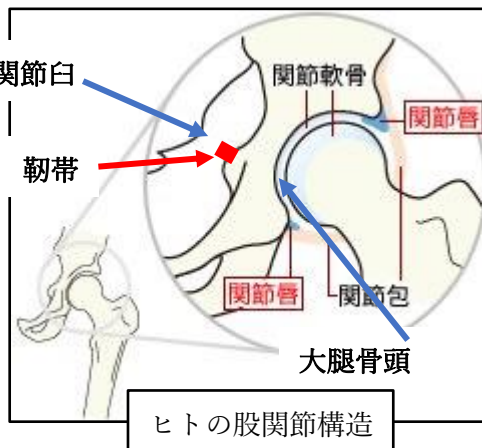
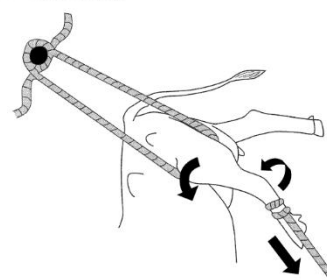
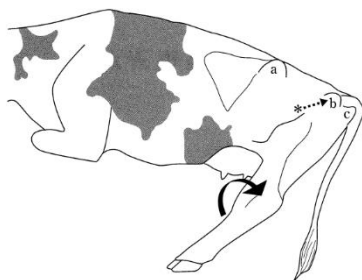


治る股関節脱臼もあります・・・

人を含め動物の股関節は、体の中心にある骨盤の一部である寛骨(かんこつ)と大腿骨(だいたいこつ)を連結する部分です。寛骨臼(かんこつきゅう)に大腿骨頭(だいたいこつとう)がはまっており、両者は靭帯で引き付けられています。牛は寛骨臼が比較的浅く、外を向いているために股関節脱臼になりやすい骨格構造をしています。さらには大きな乳房を股間に挟んでおり、体重が外へ向きやすいために、蹄が滑れば容易に肢全体が伸びてしまい、大きな力が股関節を外す力となってしまいます。



分娩後に発生した股関節後上方脱臼の非観血的整復術



右の解説は、2007年日本獣医師会雑誌に清水大樹、田口清先生によって報告された「分娩後の股関節後上方脱臼に非観血的整復術が奏功した成乳牛の1例」からです。田口先生に同行し、十勝の事業

【後上方脱臼】肢は外向きに回転(外向)し、大腿骨は上方方向に脱臼している。

【脱臼整復】身体を押さえ、肢を引っ張り、飛節をあおって肢を回転させる。

団の種牛の股関節脱臼を整復したのを目の当たりにした経験は強烈でした。「条件さえそろえば治らないことはない・・・(田口先生談)」のです。



さて、今回の症例です。「分娩後50日の泌乳ピークの牛。今朝の搾乳後滑走した後自力で起立したが異常な歩行」とのことです。往診しました。左写真のように、外転(外開き)で、外向(外向き)、伸展(伸ばしたまま、曲げ難い)。そして、臀部が落ち込んでいます(↓)。この姿勢が典型的な股関節脱臼の症状(状態)です。畜主さんは、「廃用のための診断」が欲しかったのかもしれませんが、「条件が良い」ので、整復してみることにになりました。鎮静剤で倒し、牛の



体をタイヤショベルにロープ(平打ち)で固定し、もう一台の重機で引っ張りました。牛の体が少し浮き上がるくらい引きます。定法ならもっと頭側に引くのですが、今回一度やってみて変化が見られなかったので写真のように、体に対して垂直方向に引いてみました。すると、「ゴクッ」という鈍い音とともに入った感触が伝わりました。立たせてみたところ全く正常に戻っていました。ホブルをし

て滑らない場所で安静に2-3日置いておきます。

良い条件とは：外れてから12時間以内、安静にさせておくことです。時間が経って暴れた後だと、関節や靭帯が更に傷み、周囲の組織が関節を埋めてしまうので入り難く、抜けにくくなってしまいますからです。

★へそくりくんのブログ/股関節脱臼で検索すると YouTube 動画にもいけます。